

INFORMATION

特 別 展

《ルネサンスから現代まで》
■魅せます!世界の巨匠展
4月17日(土)～6月20日(日)
〈前期〉4月17日～5月18日
〈後期〉5月20日～6月20日
デューラー、レンブラント、ドーミエ、ブレイク、ミレー、ルオー、ピカソ、シャガール、ダリなど、栄光の巨匠たちの秀作約 200 点を、道立近代美術館所蔵の珠玉の版画作品を中心に紹介します。
(前期・後期一部展示替あり)



デューラー《聖エウスタキウス》1501頃

	一 般	高大生	小中生
個 人	700	500	200
団 体	500	300	100

《京都 細見美術館》
■琳派・若冲と雅(みやび)の世界
7月3日(土)～8/22日(日)
(詳細は「特別展のごあんない」をご覧ください)

	一 般	高大生	小中生
個 人	1000	600	300
団 体	800	400	200

MUSEUM COLLECTION

■春

4月1日(木)～6月20日(日)
【常設展示室】【鶴亭記念室】
新収蔵品展
～道南ゆかりの作家～
平成21年度に新しく収蔵となった作品を中心に展示します。



平川勇《風景》

開館時間 午前9時30分～午後5時(入場は4時30分まで)
休 館 日 月曜日(祝日と重なる場合は開館)／祝日開館に伴う振替日／年末年始／展示替期間
観 覧 料

	一 般	高大生
ミュージアム・コレクション観覧料	170	100
*団体は10人以上です	140	70

観覧料の免除 次の方は無料でご覧いただけます。

【特別展】1.学校の教育活動で利用する小・中高校生及びその引率教員(「琳派・若冲と雅の世界」展を除く)
2.特別支援学校の児童生徒及びその引率者 3.児童・老人福祉施設入所の方及びその付添の方 4.障害者手帳・療育手帳等の交付を受けている方及びその付添の方

【ミュージアム・コレクション】上記1～4のほか
5.65歳以上の方 6.小中学生及びその引率教員 7.次の日に利用する高校生(毎週土曜日／こどもの日・文化の日) 8.生活保護を受けている方

■夏

7月3日(土)～8月22日(日)
【常設展示室】
田辺三重松 ～春夏秋冬～



田辺三重松《阿寒湖》

【鶴亭記念室】
金子鶴亭
～リズムとハーモニー～



金子鶴亭《草野心平詩 蛙》(部分)

EVENING

◆マジカルクラブ(メンバー登録制)
小中学生とファミリーのための美術鑑賞入門プログラム。各特別展ごとの年5回と夏休み・冬休みのワークショップを開催します。入会は随時可能です。
※年会費制／詳しくは当館までお問い合わせください。

5月15日(土)
「魅せます!世界の巨匠展」
7月24日(土)
「琳派・若冲と雅(みやび)の世界」
時間:〈午前部〉午前10時～11時30分
〈午後部〉午後1時30分～3時
会場:講堂、展示室など

◆「魅せます!世界の巨匠展」ビデオ上映会
①4月17日(土)
「世界・美の旅〈レンブラント〉」(30分)
「世界・美の旅〈ムンク〉」(30分)
②5月29日(土)
「世界・美の旅〈ピカソ〉」(30分)
「美の美〈ロダン〉」(30分)
③6月19日(土)
「マグリット〈静寂・白日夢〉」(54分)

各日午後2時～
会場:当館講堂 <入場無料>
■「魅せます!世界の巨匠展」
ギャラリー・ツアー
①4月24日(土) 午後2時～
②6月5日(土) 午後2時～
講師:当館学芸員 <要観覧券>
会場:展示室

◆ミュージアム・シアター
「魅せます!映画の巨匠～ビデオ名画座」
①5月1日(土)
午前11時～
「或る夜の出来事」(1934年／104分)

午後2時～
「暗黒街の顔役」(1931年／93分)
②5月2日(日)
午前11時～
「魔人ドラキュラ」(1931年／74分)
午後2時～
「キートンのセブンチャンス」
(1925年／56分)
「キートンの探偵学入門」
(1924年／44分)

会場:当館講堂 <入場無料>

★こどもの日シアター
「絵本の巨匠～世界絵本箱より」
日時:5月5日(水)
「かいじゅうたちのいるところ」(25分)
「スイミー」(25分)
午前11時～／午後2時～
会場:当館講堂 <入場無料>

◆「名画の秘密シリーズ」美術映画会
①5月8日(土)
「オルセー美術館」
②6月12日(土)
「パリの夜と夢」
③7月10日(土)
「ルネサンスの巨匠」
各日午後2時から
会場:当館講堂 <入場無料>

■「琳派・若冲と雅(みやび)の世界」
ギャラリー・トーク
日時:7月3日(土) 午後2時～
講師:細見良行氏(細見美術館館長)
会場:展示室 <要観覧券>

■「琳派・若冲と雅(みやび)の世界」
ギャラリー・ツアー
日時:7月17日(土) 午後2時～
講師:当館学芸員
会場:展示室 <要観覧券>

◆「琳派・若冲と雅(みやび)の世界」
ビデオ上映会
①7月18日(日)
「王朝文化の成熟」(25分)
「琳派の系譜」(25分)
②8月21日(土)
「江戸時代の絵画」(25分)
「用と美」(25分)
各日午後2時～
会場:当館講堂 <入場無料>

■特別展セミナー
「琳派・若冲と雅(みやび)の世界」
日時:7月31日(土) 午後2時～
講師:当館学芸員
会場:当館講堂 <聴講無料>

ボランティアからのお知らせ

■売店部より
売店部のコーナーでは、いちいちの会オリジナルの絵葉書、レターセット、一筆箋とともに、1月からは函館在住の西野鷹志氏の著書『ある日 函館』『アラブの水音』の2種類も販売しております。ご来館のおりには是非お立ち寄りください。お待ちしております。

■喫茶部より
3月2日・3日の限定メニュー(お抹茶・和菓子付)は100人もの方にご利用いただきました。来年も、是非にというリクエストも沢山いただきましたので、次回も企画したいと考えております。喫茶の定番メニュー「季節の紅茶」3月～5月は桜、6月～7月はサクラランボです。酸郁と匂う花の紅茶で、憩いのひと時をおすごしください。

・4月から7月までは下記の日が休館です

	日	月	火	水	木	金	土
4 April						1 2 3	
	4	5	6	7	8	9 10	
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23 24	
	25	26	27	28	29 30		

	日	月	火	水	木	金	土
5 May							1
	2 3 4 5	6	7 8				
	9	10	11	12	13 14 15		
	16	17	18	19	20 21 22		
	23	24	25	26	27 28 29		
	30	31					

	日	月	火	水	木	金	土
6 June				1 2 3 4 5			
	6	7	8 9 10 11 12				
	13	14	15 16 17 18 19				
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30			

	日	月	火	水	木	金	土
7 July						1 2 3	
	4	5	6 7 8 9 10				
	11	12	13 14 15 16 17				
	18 19	20	21 22 23 24				
	25	26	27 28 29 30 31				

「HAKOBI ☆NEWS」は年3回発行予定です。バックナンバーを当館のホームページでご覧になれます。
http://www.dokuyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/hbj

HAKOBI NEWS

洋の東西が交錯した歴史を持つ街 はこだて の美術館から
メッセージや情報をアップ・トゥ・デイトに「運び」ます。

EXHIBITION PREVIEW

特別展のごあんない

京都の文化ゾーン洛東・岡崎にある細見美術館は、大阪の実業家・細見良(初代古香庵)にはじまる細見家三代の蒐集をもとに平成10年に開館。斬新で洒落た外観の建物からは、古美術の豊富なコレクションを想像し難いのですが、その意外性もまた、大きな魅力となっています。日本の美術ファンばかりでなく海外からの研究者も惹きつける所蔵品は、縄文、弥生時代の考古品にはじまり、平安時代の王朝美術、鎌倉・室町など中世の神仏習合の美術、絵巻物や水墨画、茶の湯釜などの工芸品、桃山～江戸前期にかかる風俗図屏風、琳派や若冲を中心とする江戸絵画

など、日本美術のほぼすべての時代、分野を網羅。コレクターが情熱を傾けた、優れた名品がそろっています。本展では、この細見コレクションから重要文化財を含む貴重な作品約90点をご紹介します。日本美術の類まれな美しさや、世界に誇る意匠と造形の素晴らしさを実感していただきたいと思います。

まず「華麗なる琳派」のコーナーへ。ここでは、斬新な構図で新しい様式を確立した俵屋宗達、宗達の絵画に影響を受け新機軸を打ち出した尾形光琳、大阪を基盤にユニークな作品を描いた中村芳中、江戸で活躍した江戸琳派の酒井抱一や弟子の鈴木其一、近代の神坂雪佳など、琳派300年の系譜をたどることができます。お次は「若冲の魅惑」に酔いしれましょう。伊藤若冲(1716～1800)は、近年最も注目を浴びている日本美術のスーパー・スター。



酒井抱一「鹿楓園図」



夕庵文針図

京都 細見美術館
琳派・若冲と雅の世界

2010年 7月3日(土)～8月22日(日)



伊藤若冲「雪中鹿蜀図」



土佐光吉「潮氏物語図色紙「初音」」

京都錦街の青物問屋に生まれたが、40歳の時に家業を弟に譲って画業に専念…などという経歴も話題性がありますが、その細密画の卓越した描写や、大胆で高度な技法を駆使した水墨画などを間近に見れば、若冲画の魅力に取りつかれること必至です。

さて、細見コレクションの出発点となったのは、次のコーナー「祈りの美」です。人を苦しみから救い慰める仏画や仏像の慈悲深い表情、華麗な装飾を施した仏具、丹念に書かれた写経など、宗教美術を至上のものとしていた初代・古香庵の並々ならぬ思いが伝わってきます。〈かざりの意匠〉では、用と美を追求した日本美術のデザイン性にあらためて感心させられるでしょう。神に奉納する鏡に施した花鳥や吉祥の模様、鮮やかな意匠で染め、縫いあげられた



俵屋宗達「双大図」部分

能装束、調度に描かれた金銀の蒔絵、優れた鑄造技術で情緒豊かなやまと絵を表した芦屋釜など、技法も多彩な工芸品には、衣食住を飾る精神が生き生きと息づいています。

最後は「王朝の雅と源氏絵」のコーナー。平安時代に花開いた物語文学を絵画で表現した絵巻やかるたが、雅の世界へといざなってくれます。『源氏物語』や『伊勢物語』などの名場面からは、宮廷生活や男女のロマン、人々の悲哀などがしのばれ、しばし、時を忘れてしまうかもしれません。

本展を鑑賞された方には「琳派や若冲って、すごい!日本美術って、素晴らしい!」と、あらためて思っただけなのではないでしょうか。日本の美の精華を集めた細見コレクションが北海道で公開されるのは初めて。ぜひ、この機会に日本美術の魅力を味わい、雅の世界をご堪能ください。(学芸員 齊藤千鶴子)



藤蔭絵提重

北海道立函館美術館 HAKODATE MUSEUM OF ART, HOKKAIDO

〒040-0001 函館市五稜郭町37-6 [TEL]0138-56-6311

HAKOBI NEWS 28号
発行日:2010年3月
編集・発行/北海道立函館美術館

EXHIBITION REVIEW

展覧会報告

高橋留美子展 ～It's a Rumic World～



描いた作品の特別展示もあり、貴重な原稿やネームの展示もあわせて、盛りだくさんの内容でした。

壁に並んだ作品ばかりでなく、『めぞん一刻』の舞台となった下宿〈一刻館〉の入口や管理人室の原寸大再現コーナーや、『犬夜叉』に登場する鳥居が設置されたり、猫のような妖怪きらら(雲母)が頭上に飛んだり、作品世界に入り込むよ

年末から冬休みの時期(12月5日～1月17日)に開催された「高橋留美子展」は、人気漫画家・高橋留美子さんの、ふしぎな魅力たっぷりの世界を紹介したものです。四大代表作(『うる星やつら』『めぞん一刻』『らんま1/2』『犬夜叉』)を中心に、短編集のシリーズなども含め、それぞれ雑誌の表紙や口絵、ポスターなどを飾ったカラーイラスト原画や展覧会のための描きおろし原画など約150点が展示され、さらに、青山剛昌さんら有名作家34名が(ラムちゃん)を

うな感じも味わえたでしょうか。展覧会でのみ上映の特別版アニメーション上映(『うる星やつら』『らんま1/2』『犬夜叉』)も人気でした。

このほか、「描こう! My 高橋留美子」と題したコーナーをホールに設け、観覧者の好きなキャラクターや登場人物などの絵を自由に描いてもらったり、高橋留美子さんの作品集(コミックスなど)をほぼ全巻そろえた閲覧コーナー「高橋留美子ライブラリー」もロビーに設けて、利用してもらいました。ま

た、通常よりもぐんと拡大した特設ショップも、終盤には品薄となる盛況でした。高橋留美子グッズの人気の程がうかがえます。

冬を迎えるこの時期は、北海道の美術館ではなかなか観覧者数が伸びない傾向があります。当館でもそうなのですが、しかし本展では、作家・作品の知名度に加え、幅広い世代が親しみを持って来館されたようで、例年に比して相当の集客でした。夏場であればさらに多くの観覧者増となったことでしょう。利用者層の拡大にも寄与したのではと思われます。(学芸課長 地家光二)



雲母(きらら)も登場

EDUCATIONAL PROGRAM REPORT

事業の報告

ハコビ・シアター

当館では、「ミュージアム・シアター」や「映像フェスティバル」をはじめ、展覧会関連事業などでも、映画史上の秀作や優れた映像作品の上映を行ってきました。お正月明け早々の1月上旬に開催したのは、「ハコビ・シアター 新春特番!」と銘付った連続上映会です。



「薔薇の葬列」より

その第1弾は、1月10日、11日の2日にわたり、ちょうど開催中のミュージアム・コレクションのテーマ〈美人礼讃〉にあわせた「妖しのビューティ ～＜美人礼讃＞応援映画祭～」と題しての企画でした。ラインナップは、手塚治虫監督の大人のためのアニメーション「クレオパトラ」、丸山明宏(現・美輪明宏)主演の「黒蜥蜴」(深作欣二監督)、そして、ピーター主演の「薔薇の葬列」(松本俊夫監督)の3本。1968～70年制作の、それぞれ異色の映像作品です。16ミリフィルムでの上映で、熱心なファンを集めました。

第2弾は、1月16日に「アニメーションの最前線!」として、現代日本の映像作家・漫画家・美術家によるオムニバス・アニメーション「TOKYO LOOP」。最先端のアニメーション表現が楽しめました。こちらは、オリジナルは35ミリフィルムながら、今回はDVDメディアによるビデオプロジ



「TOKYO LOOP」より

ェクターでの上映でした。本来フィルムで制作された作品は、できるだけフィルムで上映したいというのが担当者の思いですが、設備・予算的に、時としてそれが果たせない場合もあるのが、悩みどころです。今回は35ミリとDVDとでは画質に違いがあり、16ミリ映画も、実は館の映写機が使用不能なため、他館の協力を得てこぎつけた上映なのでした。映像設備の整備や改善なども今後の課題といえそうです。(学芸課長 地家光二)

TOPICS

トピックス

コレクションの相互活用

現在6館ある北海道立美術館では、それぞれの収集方針に基づき、特色あるコレクションを形成しています。そうしたコレクションは、その収蔵館でなければ見られないのかというと、さにあらず。多様なテーマでの企画展のなかで、道立美術館館相互の作品貸借が行われています。1/23～4/11の当館企画「文字とアートの素敵な関係 あなたにそっと伝えたい」展では、当館所蔵品に加え、帯広美術館のコレクションから、ポップ・アートの巨匠ローゼンクイストや日本現代美術の異才横尾忠則らの秀作23点も展

示しています。一方、帯広美術館の「はな」展には、函館美術館の作品12点が加わりました。そして4月からの「魅せます!世界の巨匠展」は、札幌の道立近代美術館の西洋美術のコレクションから、約200点の版画を中心に紹介するものです。こうした、相互の作品活用は(もちろん輸送経費や作品保存等にも配慮しつつ)、より多くの方々に北海道の所蔵する美術品を鑑賞してもらう機会を拡充することになり、今後の企画検討のなかでも重要性を増していくものかもしれません。(学芸課長 地家光二)



帯広美術館と函館美術館のコレクションが並んだ「文字とアートの素敵な関係・・・」展

FROM OUR COLLECTION

所蔵品紹介

西村舟水《陶淵明詩「望雲慙高鳥 臨水愧遊魚」》

「雲を望みては 高鳥に慙ぢ
水に臨みては 遊魚に愧づ」

中国、東晋の詩人・陶淵明(365～427)の詩「始作鎮軍參軍經曲阿作(始めて鎮軍參軍となりて曲阿を経しときの作)」の一部を書いたものだ。官界の汚濁をきらって田園での隠遁生活に理想を求めた陶淵明が、30代半ばに軍人として官途に就く道中、後にした故郷を思っ作った詩である。雲を眺めては、高らかに飛びゆく自由な鳥の様子に、本心とは違う行いをしている自分を面目なく思い、川沿いに立てば、自由に泳ぎゆく魚を見て、我が身をとがめ立ててしまう…。詩は、純真な生活への憧れを胸に秘め、自然の成り行きにまかせようと結ばれるが、この五言対句には“自由”への強い願望がよくあらわれている。

作品を書いたのは、松前出身の書家・西村舟水(1909/明治42～2008/平成20)。教職に就きながら、おもに函館を拠点に戦後の書壇形成に関わり、1948(昭和23)年には函館市中学校習字研究会を発足させるなど書道教育に専念した。函館書藝社(1950/昭和25年～)の創立にも携わり、やがて函館書道連盟を結成。長く道南地域における書道文化の中心を担い、1969(昭和44)年には第二十



西村舟水
〈陶淵明詩「望雲慙高鳥 臨水愧遊魚」〉
2004(平成16)年頃
墨・紙・軸 135.0×50.0cm



加納守拙〈獨對一牀書〉

回函館市文化賞を受賞している。

学校教育への情熱を燃やした舟水だが、やはり自分の書には“自由”な世界を求めていたのではないだろうか。〈心同野鶴〉(1963年)は書道教育に尽力した壮年期の力量を示す作品だが、「野鶴」(仕官せずに民間にいる人のたとえ)と心と同じくする、という言葉からも、陶淵明のような生き方を望む気持ちが表れている。実際、退職後の65～70歳代から意欲的に制作を始め、80歳代に最も多くの作品を残し、95歳のときには、以後大作が書けなくなるかもしれないとまとめて制作に臨んでいる。

これは、その頃の書で、年齢を感じさせない力強い筆勢と豊かな墨量。そして、歳とともに積み上げた経験と技術をふまえ、そこから羽ばたくように展開する文字造形。陶淵明の詩の内容が舟水の心情に重なり、響き合って結晶したかに見える。翼を広げた大きな「鳥」。ゆっくりとうねり流れる「水」。遊び心に満ちた「遊」。それぞれの字が生き生きと息づいて、舟水が求めた書の世界の“自由”が、ここに立ち現われているように感じられる。

ところで、舟水が愛蔵していた師・加納守拙(1901/明治34～1991/平成3)の書〈獨對一牀書〉は、紙面の中央にぼっかりとした余白がある。見る者はここに、鳥が舞う空を思い浮かべたり、魚が遊ぶ水面を思い描くこともできるだろう。守拙は書道教育の画一性を嫌い、子供のありのままの姿を美とする「童書」教育に尽力した。師の書が舟水に、“自由”に想像し、“自由”に創造することの楽しさを教えたのかもしれない。

(学芸員 齊藤千鶴子)